九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [35_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 : 35(3)

https://doi.org/10.15017/10675

出版情報：図書館情報. 35 (3), pp.34-48, 1999-12-31. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

ISSN 0454-8213

九州大学附属図書館報

# 図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 35, No. 3 (1999)

目　　次

見えない国境を越えて：東マレーシア・サバ州のフィリピン人労働者……33
書名目録カード検索システムの試験公開について……36
レファレンス・ツール活用ガイド（Ⅱ）……38
平成11年度NACSIS-IR（新IR対応）地域講習会を開催 ……41
学部（学科）図書室トピックス～国立国会図書館所蔵明治期刊行図書
　　マイクロ版集成－農学部門－書誌所蔵検索システム～……42
OVID CDサーバのデータベース利用について
　　－Current Contents. MEDLINE等の利用手続き－ ……43
自著紹介……46
本学関係者著作寄贈図書……47

## 見えない国境を越えて：
## 東マレーシア・サバ州のフィリピン人労働者

■

清　水　　展

夏休みを利用して、２ヶ月ほど、東マレーシア・サバ州へ調査に行ってきました。かつては北ボルネオと呼ばれており、1963年にマラヤ連邦に加盟するまではイギリスの直轄植民地でした。日本との係りでは、戦前に『サンダカン八番娼館』がありました。

戦後の高度経済成長の時代には、日本の商社が大量の木材を買い付け、輸入しました。そのため広大な森林が消失し、今では熱帯のジャングルを簡単に見ることはできません。代わりに、たとえばサンダカンを中心とする東海岸の一帯には、オイル・パーム（油ヤシ）のプランテーションが広がっています。車で２時間、３時間と走っても、単調な景観が延々と続くだけです。人の姿を見かけず、心が乾いてくるような、荒々しい緑の大地です。

皮肉なことに、破壊し失われた後になって初めて、熱帯の自然をいとおしみ保護しようという動きが生まれています。同時に、それを新たな収入源とするために、熱帯の大自然が残る楽園というイメージの宣伝が盛んに行われています。州都のコタキナバルを「熱帯雨林都市」と称して、「熱帯の自然を満喫する」エコ・ツーリズムの振興が図られています。確かに、魅力的な観光名所が幾つもあります。

たとえば、4,000メートルを越える東南アジア最高峰のキナバル山やダヌン・ヴァリー公園の濃密な熱帯雨林、ペットなどとして不法に飼われていたオラン・ウータンを自然に帰すためのリハビリ施設が

あるセピロックの森、海亀が産卵のために上陸するタートル・アイランド、波打ち際から10メートル先が数百メートルのドロップ・オフ（絶壁）となっているダイビングのメッカ、シパダン島などなど。

なぜ、私がサバ州の調査かというと、百万人前後と推定されるフィリピン人出稼ぎ労働者が働いているからです。今まで、フィリピンで７年ほどの滞在調査をしてきましたが、今回は、外側あるいは周縁から、フィリピンを見てみたいと思いました。フィリピンは海外出稼ぎが盛んで、総人口の１割弱、500万人ほどが海外で働いていると言われています。なかでもサバ州は、地理的な近接と歴史的な関係のためにフィリピン人の出稼ぎ労働者が世界中でもっとも集中している地域です。また、サバ州は多民族・多言語が共存する複合社会であり、国民国家、国境、多文化主義、アイデンティティー、人の移動とハイブリッドな文化の生成などを考えるうえで、とても興味深いところです。

1996年の統計によれば、サバ州の人口はマレーシア国籍を持つ者が178万人、非マレーシア人が75万人ほどです。前者は、かつて内陸部に住んでいたカダサン・ドゥスンの諸民族（キリスト教およびアニミズム）、海岸地域に住むバジャウの諸民族（イスラム教）、19世紀からの移民である華人系などに分かれます。後者は、主にインドネシアとフィリピンからの移住者や出稼ぎ労働者です。

フィリピン人に関していえば、統計に把握されているのは一部に過ぎません。サバで働いているフィリピン人のほとんどは、ミンダナオ島の南部地域からの密入国者です。フィリピン南端のスールー海を夜中にボートで渡ってきます。フィリピン側の港から、スピード・ボートで２～３時間、普通のエンジン・ボートならば７～８時間でサンダカンなどの東海岸の町に着いてしまいます。

今年に入って９月までに8,000人のフィリピン人が逮捕され、強制送還されました。もっとも、その大半は、すぐにまたサバに戻ってきてしまいます。サバでフィリピン人と言えば、密入国や犯罪、密輸、ドラッグと結び付けられ、イメージは良くありません。残念ながら決して歓迎されてはいません。しかし、彼らの安価な労働力がサバの経済運営に不可欠です。男ならば農園や建設現場の労働者として、女ならば食堂のウェートレスや商店の売り子や一般家庭のメイドとして働き、男で月給600リンギット（１8,000円）、女で400リンギット（12,000円）ほどを得ています。

国民一人当たりの年間所得が、マレーシアでは3,000ドルを越え、フィリピンでは900ドルに過ぎません。しかもミンダナオ南部は、フィリピンのなかでも最貧地域のひとつです。マニラよりもサバの方が地理的にずっと近いし、イスラム教徒として、宗教的にも文化的にもいっそう親近感があります。スールー海に点々と浮かぶ小島に沿ってサバに渡るのは、彼らにとっては簡単で自然なことなのです。

実際、イギリスの統治下では、高等教育を受けて英語が話せる技術者、専門家、教師などのフィリピン人は、たとえ密入国であれ、サバに来れば歓迎され高給で雇われました。それ以前には、サバはフィリピン側のスルタンの支配下にあり、ミンダナオ南部とボルネオ東北地域は、一つの交易・経済圏を形成していました。

そもそも、ひと続きの海域世界に見えない国境線を敷き、しかもそれが人の自由な往来を制限するよう実際的に機能し始めたのは、マレーシア連邦という近代的な国家が成立した後のことです。たかだか30年あまりに過ぎません。国境によってフィリピン人の入国と滞在を管理制限し、同時にある程度は黙認することによって、権利や保護を与えられないまま、大量のフィリピン人がサバに滞留することになります。結果として必要不可欠な彼らの労働力を、劣悪な労働条件で安く雇うことが可能となっているのです。

国境によって物流も制限を受け、マレーシアとフィリピンとで値段が異なる商品が幾つもあります。そこで、国境によって生まれた価格差を逆に利用し、密輸によって利益をあげるフィリピン商人も出てきます。

大半のフィリピン人出稼ぎ労働者は、それまでミ

ンダナオ南部からスールー海域という、マニラから遠い辺境の地に住み、フィリピン人であることの自覚も希薄でした。しかしサバに入国したとたん、不法入国・滞在者として、警察の一斉取り締まりを常に恐れて暮らすことになります。日常生活において、フィリピン人であるゆえの差別や排除をしばしば経験します。フィリピンを出ることによって初めて、逆にフィリピン人であることの自覚と内面化を常に強要されるのです。

それと同時に、フィリピン人であることの不利益を捨て、より良い収入と安定した生活を築くために、コネを頼って偽造の身分証明書を手に入れ、マレーシア人になろうとする者も少なくありません。証明書による法的な身分とともに、そもそも似ている言葉を完全にマスターし、マレー的な文化を自分のアイデンティティーとしてゆくのです。

フィリピンからの出稼ぎ労働者は、近代の国民国家が策定した見えない国境を越えて移動することによって、それぞれ、いっそう強い自覚をもったフィリピン人になったり、新しくマレーシア人になったりしてゆくわけです。越境という行為にともなう国籍の再確認や確定は、外からの強要であり決めつけです。しかし同時に、個々人の積極的で主体的なアイデンティティーの形成や強化や再編の契機ともなっています。

そうした現象は、グローバル化が進む今日、世界中のあらゆるところで見い出されるでしょう。サバの場合、それが人々の暮らしのなかで頻繁に大量に生じており、日常生活の常態となっている点が特徴的で興味深いのです。

（しみず　ひろむ　大学院比較社会文化研究科教授）

日本人墓地からサンダカンの街と港を見おろす

# 書名目録カード検索システムの試験公開について

南　俊朗*　栗田　英和**　竹田　正幸**　有川　節夫**,*
（*附属図書館，**大学院システム情報科学研究科）

10月より、書名目録カードの検索システムが試験公開されています。これを使うことで、附属図書館の図書目録を、Webブラウザによって、図書館外から検索することができます。本システムへは、附属図書館のホームページ（www.lib.kyushu-u.ac.jp）よりリンクが張ってあります。現在は、理学と教育学部の、２つの学部のみに対応していますが、今後、他の学部のデータも順次入力し、拡張していきますので、どしどし利用してください。本稿では、この検索システム開発の背景やシステムの概要を説明します。

［システム開発の背景］

インターネットの普及により、最近では、ネットワーク経由で図書館の蔵書検索を行うことが、当たり前のことになっています。附属図書館においても、OPACによる所蔵資料の検索サービスを提供しています。しかし、全ての所蔵資料がOPACで検索可能な訳ではありません。現在、全国の大学図書館には約２億件の蔵書があるともいわれています。本学の場合で、300万件を超えますが、このうち、OPAC検索の対象となる電子化済みなのは、約70万件にすぎません。ほとんどの蔵書は、従来から用いられてきた、図書目録カードにより検索することになります。もちろん、目録カードに記載された書誌情報を遡及入力する努力がなされています。学術情報センターが中心となり、全国の図書館が協力し、書誌情報データベースを構築しています。ある図書館が入力した書誌情報は、他の図書館で参照できます。そのような工夫をしても、情報の入力には大変な手間がかかります。今後、遡及入力すべき目録カードの数は、全国の大学附属図書館全体で、3,500万件余りと見積もられています。本学の場合で、約161万件に上りますが、１年間に入力可能な件数は、６～７万件程度ですので、入力の完了までには、なお、20年以上かかることになります。これは、図書館サービスの電子化を推進するための大きな障害となっています。

本システムは、このような状況を改善し、少しでも早く、全ての目録カードの電子的検索を実現させることを目指しています。そのために、目録カードをスキャナ入力し、画像としてデータベース化しておき、Web上で検索する方法をとっています。OCRソフトによって、入力された目録カードのイメージを全て文字情報に変換できるならば、話は簡単なのですが、それは不可能です。カードの記載は、印刷されたもの、手書きのもの、修正されたものが混在しており、余りに多様です。そこで、我々は、紙目録カードの検索スタイルをWeb環境に再現することにした訳です。こうすることで、分類に基づく検索が、まず、実現できます。また、今後、検索のための書名、著者名、キーワード等の情報を追加していくことで、それに応じて普通のキーワード検索も可能とすることができます。その他、目録カードの画像データと、その入力情報を並べて画面に表示し、入力作業および入力誤りチェックができるなど、遡及入力作業自体の効率化も図れます。また、検索に用いられることの多い書名や著者名等の情報を先に入力し、その他の情報は後で必要に応じて入力するなど、書誌情報の入力が柔軟にできる利点もあります。更に、他の書誌情報とのリンクを張るとか、カードにコメントを付けるとか、様々な機能を追加することも容易です。

［システムの概要］

本システムは、図書館で目録カードを検索する方法をできるだけ忠実にWeb上に再現していますので、だれでも容易に利用することができます。画面例を図に示します。

図１にシステムのホームページを示します。中央部分に、データのある学部名が表示されています。その上に、本システムの説明、使い方説明、また、下には、意見送付へのリンクがあります。多くの方々からの意見をお願いしたいと思います。

学部名の下の和書、洋書部分をクリックすると図２のような引き出し一覧が別ウインドウに表示されます。図書館にある実際のものと同じ配列になっています。これらの中から見たい引き出しを選択すると、図３のウインドウが開きます。左のフレームには、引き出しの図、右には最初の10枚が表示されます。引き出しの中の見出しにより、目的のカードがありそうな部分をクリックすると、右フレームがその部分のカード10枚の表示に置き換わります。

意見を送るページを呼び出し、使ってみた感想や要望などを、どしどしお寄せください。そういったご意見も取り入れつつ、システムの改善やデータの充実を進めていきたいと考えています。

（みなみ　としろう　研究開発室助教授、
くりた　ひでかず　情報理学専攻（修士課程）、
たけだ　まさゆき　情報理学専攻助教授、
ありかわ　せつお　情報理学専攻教授・附属図書館長）

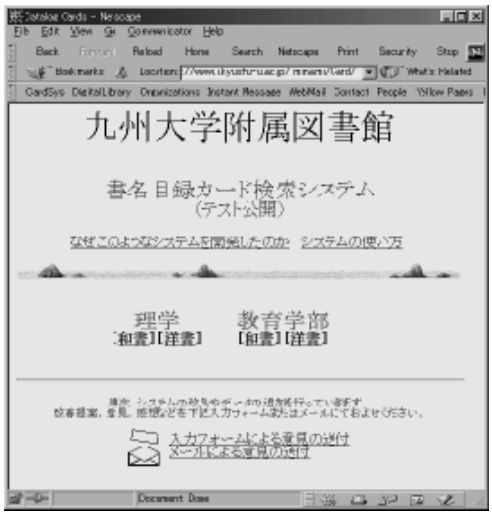



図１　システムのホームページ

図２　引き出し一覧

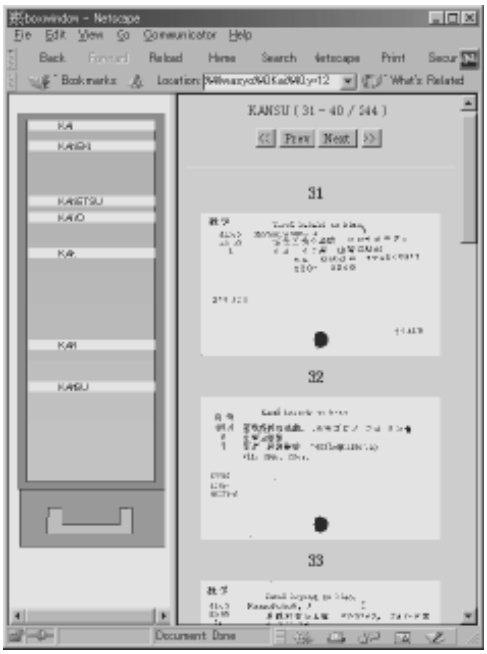


図３　引き出し内部とカードの表示

# レファレンス・ツール活用ガイド（Ⅱ）
# (http : //www. lib. kyushu-u. ac. jp/ref/ref/guide. html)

情報サービス課参考調査掛

## 論文を調べる

今回は論文を入手する方法です。
探している文献が、雑誌に掲載されている一つの論文である場合は、その論文のタイトルや著者名からでは所蔵を検索することができません。資料の所在は図書１冊あるいは雑誌１タイトルごとに決められているからです。その論文が掲載されている雑誌のタイトルと巻号、ページを確認して、それから改めて雑誌の所蔵を調べましょう。

一般に論文の書誌情報は次のように記述されています。

（例）志村尚夫，田中均．大学図書館閲覧セクションにおけるWWWの利用事例とその検証．『情報の科学と技術』Vol.48, No.2, p.587（1998）
［論文著者］，［論文タイトル］，［掲載雑誌名］，［巻号］，［ページ］，［発行年］．

また、欧文の書誌情報が複数列挙されている場合、同じタイトルの掲載雑誌名を省略して示すibid.というラテン語がよく使われます。（「同上」の意）
例えば、次のように記載されている場合、２点目の論文が掲載されている雑誌名は、１点目と同じJournal of Biological Chemistry．です。

（１）Corbin JD. Francis SH. Cyclic GMP phosphodiesterase-5：Target of sildenafil. ***Journal of Biological Chemistry.*** 274（20）：13729-13732, 1999 May 14.

（２）Karow JK. Chakraverty RK. Hickson ID. THE BLOOMS SYNDROME GENE PRODUCT IS A 3'-5' DNA HELICASE. ***ibid*** . 272（49）：30611-30614, 1997 Dec 5.

論文の書誌情報の、例えば巻号がわからない場合、わかっている著者などの情報から、完全な書誌情報を調べてみましょう。また、ある著者の執筆した論文にどんなものがあるか検索してみましょう。
図書館で利用できるツールを以下に紹介します。

●日本語の文献をさがす
**雑誌記事索引**　(http : //mlib.lib.kyushu-u.ac.jp/ )
国立国会図書館が所蔵している国内刊行雑誌の索引情報を収録しています。全ての分野の雑誌記事を検索できます。日本語で書かれた雑誌記事を検索する際の基本的なデータベースです。収録誌数約5, 500誌。
【冊子体】　1948－1989／中央館２Ｆ参考図書室
【NSCDNet】1975－present.

**大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録**
明治期から現在までの雑誌（大衆誌、週刊誌等）約2, 000誌の記事を選択的に採録し、「人名編」と「件名編」に大別しています。
【冊子体】　明治期－1995／中央館２Ｆ参考図書室
【CD－ROM】1992－1996／中央館２Ｆ参考図書室

**医学中央雑誌** (http : //mlib.lib.kyushu-u.ac.jp/ )
医学中央雑誌刊行会が作成している抄録・索引データベースです。国内の医学、歯学、薬学及びその関連領域の雑誌論文・学会発表抄録などが収録されています。日本語で書かれた医学関連文献の基本的データベースです。収録誌数約2,400誌。
【冊子体】 1903－present. ／医学分館
【NSCDNet】1987－present.

●分野別に文献をさがす
全分野
**Current Contents. All Editions.** (http : //133.5.128.14/ovidweb/ovidweb.cgi)
7,500誌以上の雑誌の目次と書誌情報のデータベース。
【OVID】1996－present.

各分野
**ERIC** （http : //133.5.128.14/ovidweb/ovidweb.cgi）
教育学関係の文献書誌情報のデータベース。プリント版のRIE（Resources in Education）とCIJE （Current Index to Journals in Education）を統合したものになっています。
【OVID】1966－1999

**PsycLIT** （http : //133.5.128.14/ovidweb/ovidweb.cgi）
心理学関係の文献書誌情報のデータベース。1,300以上の雑誌から採録されたデータが、四半期ごとの更新で約５万件加えられています。
【OVID】1887－1999

**科学技術文献速報BUNSOKU** 分野別11シリーズ。
［JICSTのホームページ（http : //www.jst.go.jp/JICST/ServiceGuide/cbst100.html）］で各分野の概説を見ることができます。）
年間70万件を超す世界の主要な文献を日本語抄録付きで収録しています。年間索引から検索することができます。1995年以降はCD-ROMで出ています。検索の際には「JICST科学技術用語シソーラス1999年版（本編・主題カテゴリー別索引）」を利用しましょう。
【冊子体】
1961（シリーズによって異なります）-present.
1995年以降の年間索引はありません。CD-ROMで検索してください。
／中央館２Ｆ参考図書室
【CD－ROM】
全シリーズ（年間累積） ：1995－present.
エネルギー・原子力工学編：1999－present.
／中央館２Ｆ参考図書室

**Chemical Abstracts** （http : //mlib.lib.kyushu-u.ac.jp/ ）
Chemical Abstracts Serviceが作成している抄録誌。化学分野を中心に幅広い科学技術分野の情報を収録しています。雑誌論文の他に特許（Patent Indexを用いて公開番号から検索できる）、テクニカルレポート、会議資料、学位論文、単行本なども収録対象となっています。収録誌数約9,000誌以上。
【冊子体】 1907－present. ／中央館２Ｆ参考図書室
【NSCDNet】Chemical Abstracts12CI・13CI on CD. 12th＝1987－1991, 13th＝1992－1996.

**MEDLINE** （http : //133.5128.14/ovidweb/ovidweb.cgi）
世界の医学、生物学および関連分野の雑誌約3,900誌の記事および会議録その他の図書の抄録データベース。
【OVID】1966－present.

●CITATION INDEX（引用文献索引）を利用する
文献の引用、被引用関係にもとづく索引。引用関係にある文献は相互に主題的な関連のある文献を探索したり、書誌情報を調査したりするのに役立ちます。

**SCI : Science Citation Index** （http : //www.lib.kyushu-u.ac.jp/wos.htm ）
科学技術、医学、農学、工学その他の自然科学の広い分野にわたる雑誌2,000誌以上から採録されています。特許検索のためのPatent Indexもあります。
【Web of Science】Science Citation Index Expanded. 1990－present.
【冊子体】1945－present. ／中央館２Ｆ参考図書室

**SSCI : Social Sciences Citation Index**
政治学、法学、経済学、社会学、文化人類学、教育学、その他の社会諸科学分野の雑誌4,000誌以上から採録されています。
【冊子体】1966－present. ／中央館２Ｆ参考図書室

**A&HCI : Arts & Humanities Citation Index**
哲学、宗教、歴史、美術、音楽、演劇、言語、文学その他の分野の雑誌1,800誌以上から採録されています。
【冊子体】1980－present. ／中央館２Ｆ参考図書室

**Journal Citation Reports : Science Edition** （Impact Factor Data）（http : //mlib.lib.kyushu-u.ac.jp/ ）
ISI社により作成されているデータベースで、個々の学術雑誌の引用論文数や雑誌間相互の引用データを知ることができます。このデータベースで雑誌の評価尺度として有名なインパクトファクターを調べることができます。収録誌数約5,000誌。
【冊子体】SCI：1975－1988／SSCI：1981－1985.
【マイクロフィッシュ】SCI：1989－1995／SSCI：1989－1991, 1993.
【CD－ROM】1994－1996.
【NSCDNet】Science Editionのみ1998.

●会議録を調べる
会議録の場合は、次の索引も調べてみましょう。

**ISTP : Index to Scientific & Technical Proceedings**
論文の著者、会議の開催地等から検索できる年間索引があります。理工系。
【冊子体】1978－present.

**ISSHP : Index to Social Sciences & Humanities Proceedings**
論文の著者、会議の開催地等から検索できる年間索引があります。人文系。
【冊子体】1979－1998

**Proceedings in Print**
累積索引はありませんが、他のツールに採録されていない論文が見つかることもあります。
【冊子体】1964－present.

●オンライン・データベース代行検索

参考調査掛で下記のオンライン・データベース検索システムの代行検索を行なっています。ただし、有料で校費のみの扱いになります。（説明文中のURLは、システムのホームページです。）

【参考調査掛】
利用時間：月－金曜日（祝日以外）　9：00－12：00, 13：00－17：00
TEL：内線　2336, 8256　外線（ダイヤルイン）092－642－2336
e-mail : ref1@lib.kyushu-u.ac.jp

**DIALOG**（http : //www.digitex.co.jp/products/dialog/index.html）

Dialog(R)はDialog（ダイアログ）社（本社：英国ロンドン）が、米国カリフォルニア州マウンテンビューにホストを置き、提供するオンライン情報検索システムです。学術論文や業界誌、特許、新聞、通信社ニュースなどの情報源から、化学物質の詳細データ、世界中で発行された特許の情報、人口統計データ、財務データなど様々な情報が収録されています。

**JOIS**（http : //www.jst.go.jp/JICST/ServiceGuide/jois.html）

科学技術に関する文献や研究テーマ情報等を6, 800万件を越すファイルの中からさがすことができます。JICSTファイル、JMEDICINEファイルなど国産のデータベースは、出力が全て漢字かな交じりの日本語で抄録付きです。

**NACSIS-IR**（http : //www.nacsis.ac.jp/ir/ir-j.html）

広範囲の分野の文献情報，学術情報などを提供する学術情報センターの情報検索サービスです。

！データベース検索サービス（OVID, NSCDNet, Web of Science）は、学内からの利用のみです。

？レファレンス・ツールの使い方で何かわからないことがありましたら、レファレンスデスク(TEL：092－642－2338)、参考調査掛（TEL：092－642－2336，e-mail : ref1. lib.kyushu-u.ac.jp）までどうぞ。

# 平成11年度NACSIS-IR（新IR対応）地域講習会を開催

平成11年10月１日㈮、附属図書館４階視聴覚ホールと２階情報サロンにおいて、学術情報センター主催による新IR対応のNACSIS-IR地域講習会が開催された。この講習会は従来の地域講習会と異なり、学術情報センターが平成12年１月からサービスを開始する、Web版を主体とする新しい情報検索システムの説明会及び操作体験実習であった。参加者数は九州地区を中心とする西日本の大学図書館等から61名（内九大16名）であった。

講習会の指導は講師として学術情報センターから３名、その他講師補助者として九大から３名の合わせて６名で実施した。主な内容は①WWW版の説明及びデモ②Telnet版の説明及びデモ③操作体験実習及びNACSIS-IR概要ビデオの視聴などが行われた。

特に操作体験実習では、図書館２階の情報サロンに設置された16台のパソコンを利用して、講師等６名の指導を受けながら講習会参加者が三つの班に分かれて新IRの検索実習を体験した。

**学部(学科)図書室トピックス　シリーズ**

# 国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成　－農学部門－ 書誌所蔵検索システム(http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/dep/agr/micro.html)

**農学部図書室**

当システムは「国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成」(明治期に刊行された図書約11万点・16万冊の全ページを収録したマイクロフィルム)のうち、農学関連約５千冊の収録内容(書名・著者名・出版年・リールNo.・コマNo.等)を検索するためのシステムです。検索ソフトはフリーソフトの日本語漢字検索システム‘Namazu’を採用し、ネットワーク上で利用できます。

## ⑴　検索式の入力(図４)

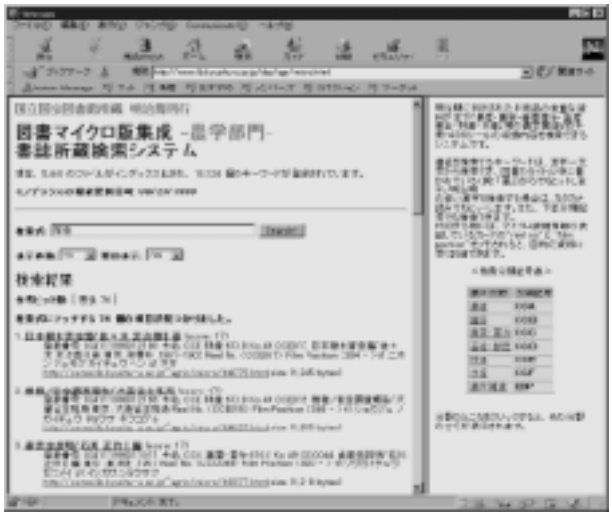
●検索したい単語を入力します。
　書名・著者名(ひらがなorカタカナor漢字)，出版地・出版者(漢字)，出版年
●前方一致検索を行う場合、末尾に＊(アスタリスク)をつけます。
●文字の全角・半角の区別はありません。但し、全角文字での検索実行時、検索式が自動的に“　”で囲まれて「フレーズ検索」になる場合があります。

## ⑵　検索結果の表示

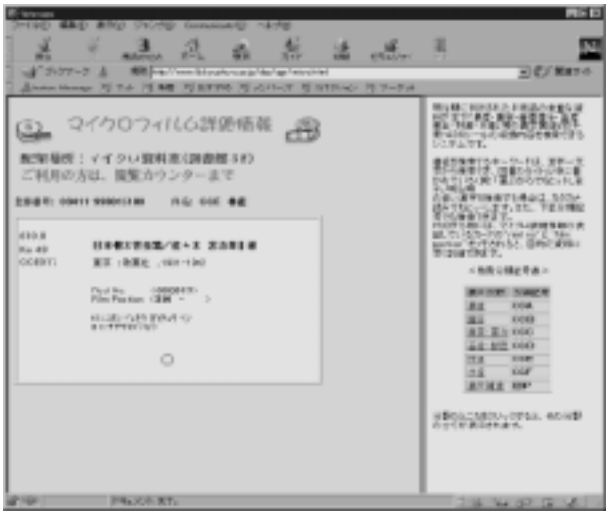
検索結果はまず一覧で表示されます(図４)。
詳細情報をご覧になりたい場合は、一覧の下線部をクリックして下さい(図５)。

## ⑶　マイクロフィルムの利用

実際のマイクロフィルムは、中央図書館３Ｆマイクロ資料室で保管しています。
ご覧になりたい方は、中央図書館２Ｆ閲覧カウンターまでお問い合わせ下さい。
その際、詳細画面のリールNo.(Reel No.)とコマNo.(Film Position)を控えておくと便利です。




(図４)




(図５)

# OVID CDサーバのデータベース利用について
## －Current Contents. MEDLINE等の利用手続き－

附属図書館が学内LANを利用して行っていますデータベース検索サービスは、中央図書館サーバと医学分館サーバから提供しています。このうち、中央図書館のOVID CDサーバから提供しているデータベースを利用する場合は、利用者のみなさまに経費の一部負担をお願いしています。（受益者負担方式－利用者登録が必要）

従来からこれらデータベース検索サービスを安定運用するために、本学教官・研究者のみなさまに可能な限りのデータベース利用登録をお願いしてきました。

つきましては、下記のとおり利用申請を受け付けていますので、新たに利用を希望される場合は情報サービス課参考調査掛まで「利用申請書」でお申し込みください。（利用申請書は九州大学附属図書館ホームページからも入手できます）

図書館ホームページ：http : //www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html

記

**１．利用資格**

本学教職員

大学院生及び学生（ただし、教職員の申請したユーザーIDでの利用）

**２．利用申請**

①利用に当たっては利用申請によるIDの取得が必要です。

ただし、自分の部局で費用の一部を負担しているデータベースについては申請の必要がありません。

費用を負担している部局及びデータベースは次のとおりです。

（平成11年12月１日現在）

MEDLINE ＝病院地区部局

ERIC ＝教育学部、大学院人間環境学研究科の一部講座

PsycLIT ＝教育学部、大学院人間環境学研究科の一部講座

②「附属図書館データベース利用申請書」を情報サービス課参考調査掛に提出してください。利用申請は校費を利用できる本学教職員に限られます。

③「利用申請書」は参考調査掛、各部局図書室等に用意していますが、九州大学附属図書館ホームページの「附属図書館データベースの利用について」から出力した利用申請書をコピーした用紙(A４版）でも受け付けます。いずれも経理担当者の確認印が必要です。

④利用期間は１年間（４月１日～翌年３月31日）で、年度末に次年度の継続利用の確認をいたします。

☆ファックス、電子メールでの申請は受け付けませんのでご注意ください。

**３．利用者負担の方法**

①利用者負担金は「校費振替」とし、10月もしくは２月に移算を行います。

②データベース利用者負担料金（利用期間は申し込み年度の３月31日まで）

・Current Contents. All Editions. － 20,000円／年

・MEDLINE － 5,000円／年（病院地区の利用者は無料です）

・ERIC　－　5,000円／年（教育学部、大学院人間環境学研究科の一部講座の利用者は無料です）
・PsycLIT　－　10,000円／年（教育学部、大学院人間環境学研究科の一部講座の利用者は無料です。１サイト契約のため箱崎地区部局教職員のみ利用できます）

**４．利用できるデータベースの概略**

⑴「Current Contents. All Editions」
・世界の主要な雑誌の最新目次情報を抄録付きで見れます。（毎週データ更新）
収録分野（セクション名）
①Agriculture & Biology ②Arts & Humanities ③Clinical Medicine
④Engineering & Technology ⑤Life Sciences ⑥Physics & Chemistry
⑦Social & Behavioral Sciences

⑵「MEDLINE」
・医学生物学分野（抄録を含む）、収録範囲は1966年～最新（毎月更新）

⑶「ERIC」
・教育学分野（抄録を含む）、収録範囲は1966年～最新（毎月更新）

⑷「PsycLIT」－－１サイト契約のため箱崎地区部局の教職員のみ利用申請できます。
・心理学分野（抄録を含む）、収録範囲は1887年～最新（年４回更新）

**※利用上のお願い**

各データベース毎に同時アクセス数が異なっていますので、制限数以上にアクセスがある場合は、目的のデータベースに接続できないことがあります。その場合はしばらく時間をおいて再度アクセスしてください。

なお、質問、問い合わせは参考調査掛までお願いいたします。

【申請書提出及び連絡先：附属図書館情報サービス課参考調査掛　電話　2336、8256】

# ● 人　事　異　動 ●

**（平成11年９月～平成11年11月）**

（中央図書館）

| | | |
|---|---|---|
| 10. 29 | 末永　亜矢 | （情報サービス課閲覧掛）（事務補佐員）辞職 |
| 11. 1 | 尾形　裕子 | 情報管理課庶務掛（事務補佐員）（採用） |
| 〃 | 相部久美子 | 情報管理課図書情報掛（情報サービス課参考調査掛から） |
| 〃 | 熊本　房子 | 情報管理課雑誌情報掛（情報サービス課相互利用掛から） |
| 〃 | 柴田とみ子 | 情報サービス課閲覧掛（情報管理課図書情報掛から） |
| 〃 | 末信友実子 | 情報サービス課相互利用掛（情報管理課庶務掛から） |
| 〃 | 栗原　園江 | 情報サービス課参考調査掛（情報管理課雑誌情報掛から） |

……**記事の再訂正**……

Vol. 35, No. 2. p. 30の「記事の訂正」で江尻順子は江尻純子の間違いです。再度お詫びして訂正いたします。

# ● 図 書 館 日 誌 ●

**（平成11年９月～平成11年11月）**

９．２　第２回「図書館電子計算機システム」仕様策定委員会
　　２　第５回ラテン語古刊本書誌作成研修会（中央図書館）
　　３　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第３回打合会（中央図書館）
　　７　附属図書館自己点検・評価委員会ワーキング・グループ
　　８　遡及入力事業の進め方に関するワークショップ（学術情報センター）（９日まで）
　　16　福岡市総合図書館運営審議会（福岡市総合図書館）
　　20　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第４回打合会（中央図書館）
　　20　平成11年度第１回総合目録データベース実務研修（学術情報センター）（10月８日まで）
　　21　第４回レファレンス事例データベース検討WG（熊本大学）
10．１　NACSIS-IR（新IR対応）地域講習会（学術情報センター主催）（中央図書館）
　　７　電子ジャーナルの導入に関する検討WG
　　８　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第５回打合会（中央図書館）
　　13　第32回国立七大学附属図書館部課長会議（大阪大学）
　　14　第73次国立七大学附属図書館協議会（大阪大学）
　　15　第３回「図書館電子計算機システム」仕様策定委員会
　　19　西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学）（22日まで）
　　20　図書館情報サービスにおける国際協力活動に関するワークショップ（学術情報センター）（21日まで）
　　21　九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議（佐賀大学）（22日まで）
　　22　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第６回打合会（中央図書館）
　　27　第１回福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会（福岡女学院大学）
　　28　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第７回打合会（中央図書館）
　　28　第３回図書館情報編集委員会
　　31　海外大学図書館調査（シンガポール、タイ）（11月５日まで）
11．８　平成11年度漢籍担当職員講習会（初級）（京都大学）（12日まで）
　　９　平成11年度大学図書館職員講習会（大阪大学）（12日まで）
　　11　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第８回打合会（中央図書館）
　　11　学術雑誌総合目録和文編2000年版データ作成説明会（大阪）
　　12　スペイン国コミーリャス大学長、貴重図書見学
　　15　第２回NACSIS-IRデータベース実務研修（学術情報センター）（16日まで）
　　17　第12回国立大学図書館協議会シンポジウム（岡山大学）（18日まで）
　　22　事務一元化（理学部等・農学部図書掛）第９回打合会（中央図書館）
　　24　学術情報センターとの業務連絡会（東京大学）
　　24　第６回ラテン語古刊本書誌作成研修会
　　25　国立大学図書館協議会常務理事会（名古屋大学）
　　26　国立大学図書館協議会理事会等（名古屋大学）
　　29　第２回電子ジャーナルの導入に関する検討WG
　　30　電子ジャーナル「サイエンス・ダイレクト－21（SD－21）」利用説明会（中央図書館、医学分館）

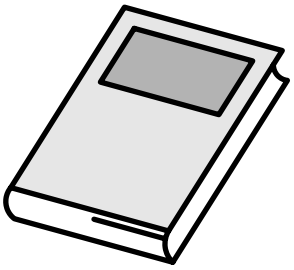
# 自著紹介

## 久野国夫（経済学部教授）等編
## 『ちょっとまて公共事業：環境・福祉の視点から見直す』

［中央図書館　510.9219／Ts92］

諫早湾干拓事業は全国的な注目を浴びたが、公共事業をめぐる問題は今日非常に深刻である。１つはそれが自治体財政を圧迫し、社会保障関係予算等の削減となって住民生活にしわよせされつつあるということである。第２に自然環境破壊である。公共事業により失われた自然は、取り返しがつかない。第３に公共事業につきまとう不透明さと政治とのつながりである。

本書は九州地域の公共事業の事例を中心に、以上の問題点を解剖し、地域経済の公共事業依存型から社会福祉型への転換の必要性を提起したものである。したがって、本書は公共事業を素材とした、今日の日本社会の政治経済学的分析を課題とした。九州地域の各事例は具体的であり読みごたえがある。住民運動を含め地方政治の実状も、具体例をとりあげ分析されている。学術書ではあるが、問題の性質上、啓蒙書として編集したものであり、全学共通教育や低年次学生向けのサブゼミナールのテキストなどとして取り上げていただければ幸いである。



## 松尾英輔（大学院生物資源環境科学研究科教授）
## 『園芸療法を探る：癒しと人間らしさを求めて』

［中央図書館　615.85／Ma85／e］

近年、農耕・園芸の多面的機能が注目されている。なかでも1990年代前半に導入された「園芸療法」には、一般市民だけでなく産・官・学界の関心も急速に高まってきた。

本書では、アメリカにおける園芸療法の歴史的発展を踏まえて、園芸療法とはなにかを明確にし、日本における園芸療法の現状と展望を解説するとともに、園芸療法士の資格認定や評価の問題点なども指摘し、その制度的整備の必要性、さらには、健常者をも含めた市民への農耕・園芸の効用を活用する「園芸福祉」の推進を訴えた。

本書は園芸療法の基本的考え方と全貌をつかむことをねらいとしており、本書を読めば、園芸療法とはなにか、それをどこで学べるか、その実践活動を見学するには、資格を取得する方法は、外国の実情はどうなっているか、どんな文献があるか、などの疑問に対する回答が得られる。

したがって、園芸療法に関心のある人、これから学ぼうとする人、現場で活動しながら、もう一度園芸療法とはなにかを考えなおしてみたい人には最適の書であると自負している。

# 本学関係者著作寄贈図書

**蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。**

**〔中央図書館〕**

**久野国夫**（経済学部教授）
「ちょっとまて公共事業：環境・福祉の視点から見直す」
蔦川正義、久野国夫、阿部誠編
大月書店　1999
［中央図書館　510.9219／Ts 92］

**荒木啓二郎**（大学院システム情報科学研究科教授）
「ソフトウェア工学の基礎６」
荒木啓二郎、張漢明編
近代科学社　1999
［中央図書館　007.63／A 64／6］

**荒木啓二郎**（大学院システム情報科学研究科教授）
「IFM'99 : proceedings of the1st International Conference on Integrated Formal Methods, York, 28-29 June 1999」
Keijiro Araki, Andy Galloway, and Kenji Taguchi (eds.).
London ; New York : Springer, c1999
［中央図書館　007.6／I 57］

**荒木啓二郎**（大学院システム情報科学研究科教授）
「High performance computing : International Symposium, ISHPC'97, Fukuoka, Japan, November 4-6, 1997」
Polychronopoulos, C. D.[et al.] (eds.).
Berlin ; New York : Springer, c1997
［中央図書館 007.6／I 57］

**大橋洋一**（大学院法学研究科教授）
「対話型行政法学の創造」
大橋洋一著
弘文堂　1999
［中央図書館　323.9／O 28］

**鈴木譲**（大学院人間環境学研究科教授）
「The emergence and evolution of peak associations in Japan and the United States」
Yuzuru Suzuki.
Ann Arbor, MI : UMI, c1995
［中央図書館　366.9／Su 96］

**緒方一夫**（熱帯農学研究センター助教授）
「日本産アリ類カラー画像データベース」
アリ類データベース作成グループ編
日本蟻類研究会　1999
［中央図書館　CR－C／486.7］

**水波朗**（法学部名誉教授）
「Gerechtigkeit in der sozialen ordnung : die tugend der gerechtigkeit im zeitalter der globalisierung」
Rudolf Weiler und Akira Mizunami.
Berlin : Duncker & Humblot, c1999
［中央図書館　321.2／W 55］

**〔農学部〕**

**松尾英輔**（農学部教授）
「園芸療法を探る：癒しと人間らしさを求めて」
松尾英輔著
名古屋：グリーン情報　1998
［農学部図書室　615.85／Ma 85／e］

お知らせ

# 校費専用カラー複写機を設置

中央図書館複写センター内に、校費発行の複写カードで利用できるカラー複写機を設置しましたのでご利用ください。

料金は１枚当たり80円です。

なお、複写カード（発行済みのものを含む）は、カラー複写機・モノクロ複写機共通に利用できます。複写カードのお申し込みは従来どおり「全学共同利用複写カード申込書」によりお願いします。

（連絡先：情報サービス課相互利用掛　電話：内線2334）

九州大学の蔵書検索やデータベース検索を附属図書館ホームページから行うことができます。学内LAN（KITE）に接続された研究室のパソコンから利用できます。ホームページアドレスは次のとおりです。

URL ： http : //www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html

①OPAC（九州大学の図書、雑誌の所蔵検索）

②Webcat（国内の大学図書館等の図書、雑誌の所蔵検索）

③OVID CDサーバ検索

・Current Contents. All Editions（全分野の目次速報）

・MEDLINE（医学生物学文献データベース）

・ERIC（教育学文献データベース）

・PsycLIT（心理学文献データベース）――箱崎地区部局のみ利用可

④NSCDNet CDサーバ検索

・CA CI 12th‐13th（1987－1996）on CD（化学文献データベース）

・医学中央雑誌

・雑誌記事索引

・Journal Citation Reports. 1998（インパクトファクター・データ）

⑤Web of Science ： SCI Expanded（引用索引データベース）

なお、③OVIDのデータベースを利用する場合は、利用者登録が必要です。（本号の43頁を参照）

九州大学附属図書館報「図書館情報」　Vol. 35, No. 3（通巻193号）
編集発行　九州大学附属図書館　1999年 12 月31日
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6 丁目10番 1 号　電話(092)642-2336（ダイヤルイン）